

R 8 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	理数・理数数学Ⅱ	単位数	5	担当者	小山・玉谷
---	----	-------	----------	-----	---	-----	-------

1. 教科書・副教材

教科書 高等学校数学Ⅱ（数研出版）・高等学校数学B（数研出版） 問題集 クリアー 数学Ⅱ+B（数研出版） 参考書 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B（数研出版）
--

2. 科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。 ・数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
--

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前 期	4月	式と証明（Ⅱ）	・整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について計算方法を理解させる。	88	既習範囲
	5月	複素数と方程式（Ⅱ）	・数の範囲を複素数まで拡張した二次方程式および高次方程式を解くことができるようにする		
	6月	図形と方程式（Ⅱ）	・直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係について学び、様々な問題に応用させる、		
	7月	三角関数（Ⅱ）	・角の概念を一般角まで拡張し、三角関数及び加法定理について理解させる。		
	8月 9月				
後 期	10月	指数関数と対数関数（Ⅱ）	・指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	87	既習範囲
	11月	数列（B）	・等差数列、等比数列およびその一般項、漸化式と数列の関係、帰納法の証明方法を理解させる。		
	12月	微分法と積分法（Ⅱ）	・増減表からグラフをかくこと、極値及び最大値、最小値を求める計算力をつけさせる。		
	1月		・定積分と面積の関係を理解させる。		
	2月 3月				

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	基本的な概念、法則、用語、記号等を理解し知識を身に付ける。	定期考査・小テスト、宿題・課題
思考・判断・表現	数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考える。考察、表現、処理の方法を身に付け、的確に解決する。	定期考査・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	数学的な見方や考え方の良さを認識し、考察に活用しようとする。	グループワーク等、宿題・課題

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

復習を中心として、毎日、問題集に触れること。日々の積み重ねが学力の定着につながる。単位数が多いため、定期的に小テストを行う。生徒の進度に応じて内容を変更することがある。
--

R 8 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年 教科・科目	理科・理数化学	単位数	3	担当者	田澤
---	----------	---------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

教科書：化学基礎（数研出版） 副教材：リードα化学基礎（数研出版）、フォローアップドリル化学基礎（数研出版）、サイエンスビュー化学総合資料（実教出版）
--

2. 科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な物質を探究する学問としての化学が人類に果たした役割を理解する。 ・物質の粒子性と物質が他の物質に変化することを理解する。 ・物質についての基本概念を理解し、科学的な自然観や思考力を育成する。 ・観察・実験などを通して、化学的に探究する力を養う。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	化学と人間生活 物質の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・生活と化学のかかわりを理解する。 ・物質が分子、原子から構成されることを理解する。 ・原子の電子配置を理解し、元素の周期表について理解する。 ・電子に着目して、原子間の結合の様式とそれらの結合から出来ている物質の性質を理解する。 ・原子の質量と物質量の考え方を理解する。 ・化学反応式を理解する。 ・化学変化における量的関係を理解する。 	5 3	化学と人間生活 物質の構成 物質と化学結合
	5月	物質と化学結合			
	6月	・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合			
	7月	・金属と金属結合			
	8月	物質の変化 ・物質量と化学反応式			
9月					
後期	10月	・酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基の定義と酸と塩基の強さを理解する。 ・水素イオン濃度と pH の計算方法を理解する。 ・中和反応の仕組みを理解する。 ・実験を通して中和滴定のしくみを理解する。 ・塩の分類と水溶液の性質を理解する。 ・酸化と還元の定義を理解する。 ・酸化剤・還元剤の量的関係を理解する。 ・酸化還元反応の応用として、電池と電気分解のしくみおよび金属の製錬を理解する。 	5 2	酸と塩基 中和反応
	11月	・中和反応			
	12月	・酸化還元反応			
	1月				
	2月	・酸化還元反応の応用			
3月					

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	定期考査・小テスト・実験などで評価。全体の成績の5割とする。
思考・判断・表現	物質とその変化を対象に、実験などを通して、探究の方法を習得し、報告書や発表により表現し、科学的に探究する。	定期考査・小テスト・実験などで評価。全体の成績の3割とする。
主体的に学習に取り組む態度	物質とその変化を対象に、主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	提出物、小論文、実験、自己評価などで評価。全体の成績の2割とする。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

さまざまな事象に興味を持ってその仕組みを理解するように心がける。しかし、最低限覚えなければならない事柄は、きちんと覚える必要がある。問題集を利用しての予習、復習と応用の学習をしよう。実験が行われる。安全のためにも、理解のためにも、十分な準備が必要である。化学的な観点と自分で学んだことの両面からレポートを作成する。

R 8 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年 教科・科目	理科・理数地学	単位数	3	担当者	小野
---	----------	---------	-----	---	-----	----

1. 教科書・副教材

教科書：地学基礎（啓林館） 副教材：Navi&トレーニング（啓林館）、センサー地学基礎 4th Edition（啓林館）、ニューステージ 地学図表（浜島書店）
--

2. 科目の目標

日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月 5月 6月 7月 8月 9月	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 地球の概観、地球の内部構造 第2章 活動する地球 プレートテクトニクス、地震 火山活動と火成岩の形成 第2部 太陽と海洋 第1章 大気と気象 大気圏、水と気象 第2章 太陽放射と大気・海水の運動 地球のエネルギー収支、大気の大循環 第3章 日本の天気 日本の位置、冬から春の天気 夏からの秋の天気 問題演習	・ 私たちが住んでいる地球の特徴を調べ、地球が誕生したようすや、地球内部やプレートの動き地質構造や変成作用について考える。 ・ 地震、火山は短時間で莫大なエネルギーを放出し、大きな被害をもたらす。意外にも、地震活動や火山活動が活発な地域は限られることを学ぶ。 ・ 大気中の水が気体・液体・固体と状態を変えながら、雲となり、雨や雪となってさまざまな気象の変化を引き起こすことを学ぶ。	5 3	既習範囲
後期	10月 11月 12月 1月 2月 3月	第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生 宇宙の誕生、太陽系の誕生 第2章 地球と生命の進化 先カンブリア時代、顕生代 第3章 地球史の読み方 地層からわかること、地層の形成 地層の読み方 第4部 自然との共生 地球環境と人類、地震災害、火山災害 気象災害、災害と社会 人間生活と地球環境の変化 問題演習	・ 宇宙がビッグバンの始まりから百十数億年にわたりつくりだしてきた恒星や銀河、銀河団について学ぶ。 ・ 地球は約46億年前に誕生し、その姿を変えてきた。地層に残された化石などの生物の記録をもとに過去の出来事を学ぶ。 ・ 私たちを取り巻く自然現象を理解し、自然環境と人類の共生について学ぶ。	5 2	既習範囲

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	定期考査・単元テスト・小テストなどで評価。全体の成績の5割を占める。なお、その際は100点満点(定期考査8割・単元テスト+小テスト等2割)で換算し、0.5を掛ける。
思考・判断・表現	問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	定期考査・単元テスト・小テストなどで評価。全体の成績の3割を占める。なお、その際は100点満点で換算し、0.3を掛ける。定期考査8割・単元テスト+小テスト等2割)
主体的に学習に取り組む態度	主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	提出物、振り返りシート、実験レポート、自己評価などで評価。全体の成績の2割を占める。(例えば、ノート5点、レポート5点、ファイル5点、授業態度5点)

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

さまざまな地学的現象に興味を持ち、理解するように心がける。ただし、最低限覚えなければならない事柄は、きちんと覚える必要がある。問題集での復習を繰り返すことを推奨する。

R 8 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	理数・理数探究	単位数	2	担当者	前田・小野・西澤・渡辺・田澤・玉谷・永島・山岸・中村
---	----	-------	---------	-----	---	-----	----------------------------

1. 教科書・副教材

オリジナルプリントおよび各科目による

2. 科目の目標

理数探究基礎で学んだ知識や技能を活かし、設定した課題に対して科学及び数学に関する手法等を用いて解決する学習を通して、専門的な知識と技能の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

3. 学習の計画

	月	項目	内容	時数	考查範囲
前 期	4月	ガイダンス	1年間の計画、理数探究の目的などについて	35	
	5月	予備調査・予備実験	計画発表 テーマ決定のため予備調査・予備実験		
	6月	校内活動	研究テーマの決定 大学講師による出前講座①		
	7月	ポスター発表会	ポスターセッション 反省と計画の修正		
	8月	研究	調査・実験		
	9月	中間発表会準備 中間発表会	中間発表会スライド・発表原稿作成 レクチャー 反省と計画の修正 中間発表会を受けて実験・調査等		
後 期	10月	校外活動	センター実習	35	
	11月	校内活動	大学講師による出前講座②		
	12月	ガイダンス	理数探究のまとめについて		
	1月	発表会準備	発表会および論文作成へ向けて実験・調査等		
	2月	発表会 論文作成	発表会スライド・ポスター作成 レクチャー・ポスターセッション		
	3月	論文提出	報告書		

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	(ア) 探究の意義についての理解 (イ) 探究の過程についての理解 (ウ) 研究倫理についての理解 (エ) 観察、実験、調査等についての基本的な技能 (オ) 事象を分析するための基本的な技能 (カ) 探究した結果をまとめ、発表するための基本的な技能	以下の成果で総合的に評価する。 ①研究全体への取り組み ②実験、講義等への取り組み ③レポート（報告書）の内容 ④ポスター・スライド・論文の内容 ⑤発表の内容及び態度（発表会）
思考・判断・表現	(ア) 課題を設定するための基礎的な力 (イ) 数学的な手法や科学的な手法などを用いて、探究の過程を遂行する力 (ウ) 探究した結果をまとめ、適切に表現する力	
主体的に学習に取り組む態度	様々な事象や課題に知的な好奇心をもって向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決に向けて挑戦しようとする態度	

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

観察、実験などの結果を分析し解釈して自らの考えを導き出し、それら表現するなどの学習活動を充実すること。
 観察、実験、野外観察、調査などに当たっては、関連する法規等に従い、事故防止について十分留意するとともに、使用薬品などの管理及び廃棄についても適切におこなうこと。
 コンピュータ、情報通信ネットワーク、図書館などを積極的かつ適切に活用すること。
 研究の過程において、科学的に探究する能力と態度、さらには、コミュニケーション能力を育成することを目指しています。